

香川県教育委員会事務局
保 健 体 育 課 長 殿

学 校 名 さぬき市立志度小学校
学校長名 山 中 正 治

令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

I 事業実施前の課題

- ・パラスポーツへの関心が低く、障がい者がするスポーツであると捉えている児童が多い。

II 具体的な取組み

1 活動名 (事前学習) : パラスポーツについて知ろう

- (1) 日 時 : 令和 2 年 1 1 月 1 1 日 (水) 1 0 : 2 5 ~ 1 1 : 1 0
- (2) 対象者 : 第 5 学年 9 3 名
- (3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

I' m POSSIBLE を活用し、ボッチャやゴールボールの競技の仕方や工夫について学習した。ボッチャでは、障がいの程度に合わせて補助具を活用してよいことや、競技を補助する役割があることを知り、多様性を大切にしたいスポーツであることを学んだ。また、ゴールボールには、「お静かに」というカードを掲げて応援を促すことを知り、競技の特性や、競技者を思いやる心の大切さを学んだ。

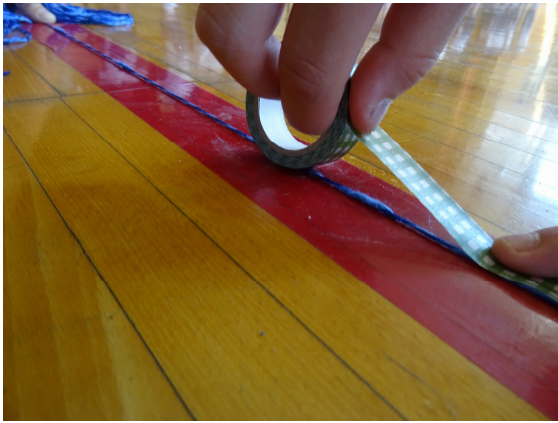
2 活動名 (中心学習) : パラスポーツ (ボッチャ、ゴールボール) を体験しよう

- (1) 日 時 : 令和 2 年 1 1 月 1 3 日 (金) 1 0 : 2 5 ~ 1 1 : 1 0
- (2) 対象者 : 第 5 学年 9 3 名
- (3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

「ユニボッチャ」を用いて、ボッチャの体験を行った。体験を通して、障がいの有無や運動の得手不得手に関係なく、誰が取り組んでも楽しいスポーツであることを体感した。学習の様子の一部を保護者に参観してもらったことで、パラスポーツの理念や価値、共生社会の大切さについて、啓発する機会となった。

ボッチャに続き、ゴールボールの体験を行った。ゴールボールの重さや硬さ、アイシェードをした際の恐怖感から、当初は難しいスポーツだという印象をもっていたが、チームで守りにつく位置を話し合い、作戦を立てる活動を設定したことで、力を合わせて競技する楽しみや、戦術面の面白さに気付いた。

(4) 活動の様子



【チームで守る位置を話し合い、印を付けて競技に取り組むところ】

3 活動名 (事後学習) : 実際の競技の様子を知ろう

(1) 日 時 : 令和2年11月18日 (水) 10:25~11:10

(2) 対象者 : 第5学年93名

(3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

I' mPOSSIBLE を活用し、実際のゴールボールの競技の様子を視聴した。児童は、ボールの速さや投球の力強さ、硬く重いボールを体を投げ出して受け止める強い心に驚き、パラアスリートの凄みを感じ取った。

Ⅲ 成果と課題

- ボッチャでは、投げる玉の数や位置について考えることで、全員が楽しんで参加する方法を探る姿が見られた。
- ゴールボールでは、守る位置について考え、作戦を立てることで、チームで取り組む楽しみを感じる姿が見られた。また、ゴールボールを「攻める」スポーツではなく、「守る」スポーツとして捉え、既知のスポーツとの違いを語る姿から、スポーツ観の変容が感じられた。
- ゴールボールの体験後に競技の様子を視聴することで、パラアスリートの力強さや技能の高さ、心について考えることができた。
- △ 事前と事後のアンケート結果から、オリンピックやパラリンピックへの興味に大きな変化が見られなかった。これは、東京大会が延期されたこと (一時期は、一部の報道で、開催中止かと案じられていたこと) や、体験したスポーツへの興味が大会自体への興味につながらなかったことが考えられる。
- △ 事前と事後のアンケート結果から、大会に関連するイベントの参加や、他者との交流、障がい者とのスポーツ参加において、大きな変化が見られなかった。これは、新型コロナウイルス感染症により、イベントの参加や他者との交流に懸念を抱いていることが考えられる。また、例年は、パラアスリート等を招聘し、交流することで、これらのアンケート結果が向上していたことも推察されるため、リモート等、実現可能な形で講演・交流の場を設定したい。